

医療法人社団松寿会理事長 グループ統括院長
一般社団法人 国際抗老化再生医療学会理事長・点滴療法研究会ボードメンバー

松山 淳先生



現在、予防医学やアンチエイジングを目的とした治療の中で、点滴療法が注目されています。クリニックと患者様どちらにもメリットが高い点滴療法について、点滴療法のメリットと導入における自費診療とクリニック経営のポイントを松山先生にお伺いしました。

点滴療法の最大のメリットは『量の確定』ができること

点滴療法のメリットは、内服の様に消化吸収される過程でそのままの形で吸収されないのに対し、しっかりと確定した量が一定時間で入っていく事です。例えばビタミンCを内服した場合は、通常の食事量の2倍程度の量しか血中濃度が上がらないのに対して、点滴であれば確実に50〜150倍以上程度にまで血中濃度を上げることが可能になります。言うなれば点滴療法の場合は、量の確定ができるし、そのままピュアな状態で身

体に摂りこむ事が可能です。内服では摂取量が限られる上に実質的などの程度吸収され、血中に移行しているのか実はわからないところがあります。

先程の例に出したビタミンC一つ取っても、少量のビタミンの摂取だけでは代謝はスムーズに動きません。しかし有効な量を使えば代謝を動かすこともできるのです。ビタミンやミネラルには最低必要量、健康維持量、そして治療ドーズがあります。治療ドーズを得るには多くの場合で点滴という経路が重要になります。

これはアンチエイジングや健康寿命を延ばす治療のためにも有効な方法です。正確に量を入れられる点滴はとても重要な方法です。

『確実な量』が入っていないか、ればそれなりの効果は見込めないとはいえませんが、現実的にはアンチエイジングのためだけでなくガンなどの治療の一環としても使用することがあります。そうなる管理された確実な量を使わないと効果は望めないのです。患者様の治療を左右することもあるので、きちんとトレーニングをうけて実施する事が望まれます。

私が点滴療法に力を入れていく理由は患者様のために治療の確実性を上げるだけでなく、クリニック側にも非常にメリットが高いと考えているからです。

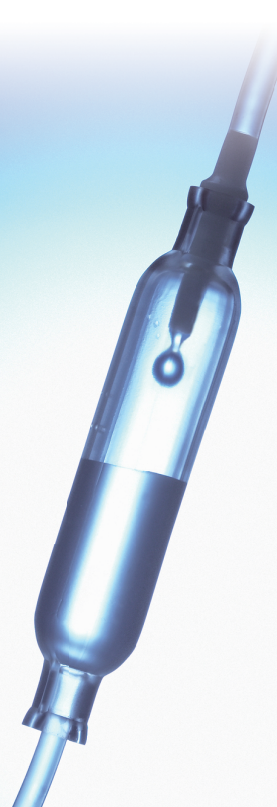
点滴療法単体でなく併用することでも経営的にも相乗効果が生まれる

点滴療法は健康長寿のための新しい治療法という側面だけでなく、クリニックの将来に対しても非常に良い経営的メリットをもたらすと思います。患者様に対しては安全で有効な治療法であり、クリニック側から見ると保険診療以外の患者様が增加するチャンスになります。これは従来保険診療ではご来院されなかった患者様が増えることで、その分の増収が見込める事になります。実際、この療法は自費診療ですから、クリニック側で考えた値段の提示ができることも良い点です。

逆に自費診療で来られた患者様が風邪や湿疹などの治療で一度来院したクリニックを覚えていて

保険診療でいらつしゃるといった例もあり、総合的な保険診療も増加する可能性があります。

そして最も効果的な方法は点滴療法とサプリメントを組み合わせた治療です。点滴に加えて「外用」「内服」を併用していくことで、点滴だけだと途中で効果が止まることもあるので、そこはサプリメント等で補っていく。毎日点滴が受けられるわけではないので、一旦良い状態になったものをさらに維持するためにサプリメントで補うことが重要なのです。逆にサプリメントの処方だけだと患者様は治療実感が無いのでモチベーションが下がり、ご来院されなくなる。その点でも定期的な点滴をお受けになられて併用してサプリメントをおすすめする。両方なさっている患者様は確実に継続につながっています。経営的視点からも、点滴療法とサプリメントは併用していくことが重要です。



大特集・注目される点滴療法 点滴療法がもたらす新しいクリニックのビジネスモデル

